

福島鷗波 うなづか 漢詩人、郷土史家。元治元年十月九日上佐國高知城下生れ、昭和十六年一月一日歿（二六四—一九四）。講成行、字子蓮、幼名藤太郎。別號源自玄、石文衾。遞信官吏として米澤・長野・仙臺等の郵便局に應任後日露戦役に出征、野戦郵便局勤務中尉階官官として第一番小所屬。その儘滿洲に滞在四年、關東都督府勤務を経て歸國。爾後石峒家の編纂事務、次ついでに山内家編纂所に入り、傍ら雜誌『上佐史談』、『新舊時代』、『中央史壇』等小執筆。特に南學系統の紹介に努めた。

著書『紅黄文』一附上佐自誌』(明治二十年七月二十日高知・開成舎「上陽叢書」)等。